

2024年10月28日

【声明】

2024年ノーベル平和賞の受賞にあたって

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）

2024年10月11日（金）18時（日本時間）、ノルウェーの首都オスロにあるノーベル委員会から2024年のノーベル平和賞は日本の被爆者団体である「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」に授与するとの発表がなされました。

発表の直後、日本被団協の役員たちは耳を疑いました。1985年、有力候補としてあげられて以来、度々、有力候補と報じられ期待させられました。2017年の発表で授賞者として「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」の名があげられて以降、ノーベル平和賞を期待することはほとんどありませんでした。

その後も日本被団協はICANと共同して核兵器禁止条約の普遍化に努め、核兵器も戦争もない世界の実現を目指して運動を進めてきたことは言うまでもありません。

今年の授賞の理由を知ったとき、その内容が簡潔にしてしかも的確に「日本被団協」の組織と運動の根幹が理解され、評価されていることに感動しました。すでに亡くなった多くの先達とこの喜びを共にしたいと思います。

日本被団協が選ばれたのは、80年前に原子爆弾の非人道的な被害を受け、自分たちと同じ苦しみを地球上のだれにも味わわせてはならないと、今日まで一貫して核兵器の使用禁止、廃絶を求めて、自らの苦しい体験の証言を通して訴え続けてきた活動と被爆者一人ひとりの働きが高く評価されたものです。委員会は今日の、核兵器が使用されかねない国際情勢のもと、核兵器は使われてはならないという規範「核のタブー」が危機に瀕し始めたことを世界に知らしめるべく、「日本被団協」に授与したことの意義を強調しています。

併せて高齢化した被爆者がいなくなるときが来ることから、近年、若者の中に被爆者の経験とメッセージを引き継ぐ運動が芽生え始めていることにも注目し、日本被団協の存在意義を世界のものにすることを強調しています。

私たちは2024年ノーベル平和賞の受賞者に選ばれたことに感謝しつつ、受賞を重く受け止めて、若い世代への継承を願いつつ、一層頑張ることを誓いたいと思います。